

経営比較分析表（令和5年度決算）

香川県 観音寺市

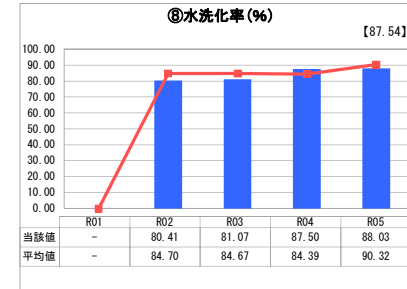
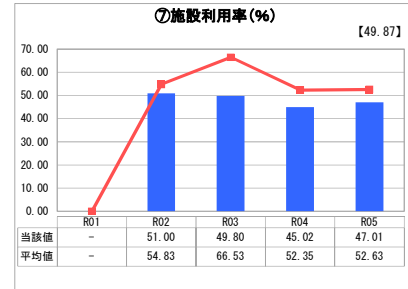
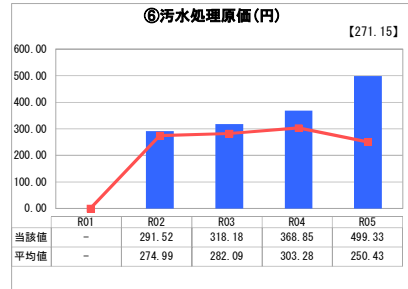
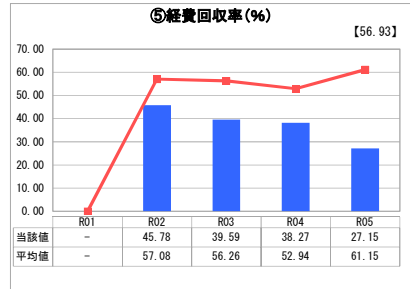
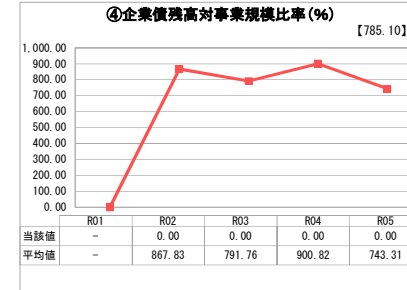
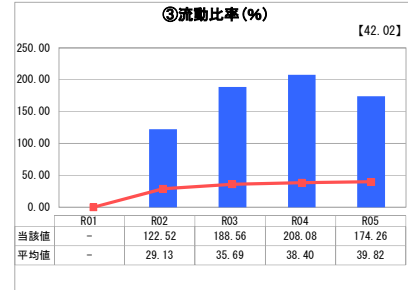
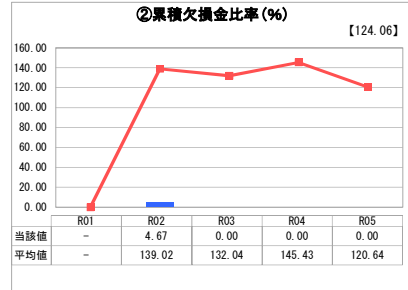
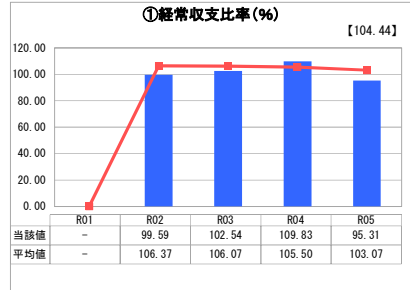
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	85.44	0.96	100.00	3,140

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
57,071	117.83	484.35
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
543	0.28	1,939.29

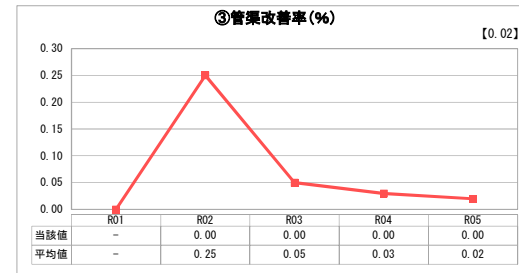
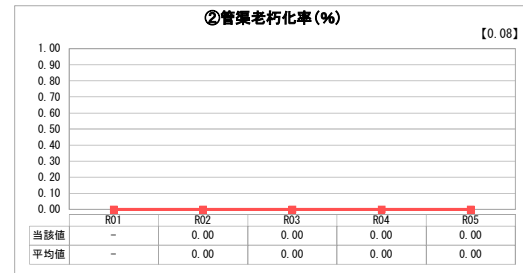
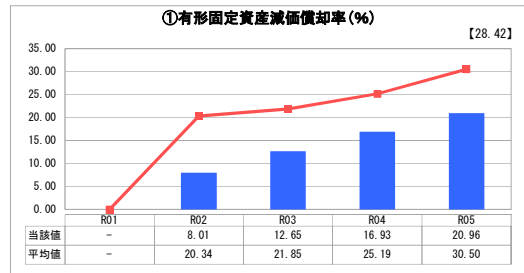
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率が100%を下回り、⑤ 経費回収率も低下、⑥ 汚水処理原価が上昇した。いずれも、処理場設備に修繕を要し、汚水処理費が増大したことに起因する。

② 累積欠損金比率が0%ではあるものの、⑤ 経費回収率は低水準で推移しており、依然として使用料で回収できない費用を一般会計からの繰入金で賄っている状況である。

⑧ 水洗化率が改善したものの、今後大幅に上昇することは考えにくく、経営改善のためには、類似団体平均値に対して高水準にある⑥ 汚水処理原価を抑制すべく、引き続き汚水処理費の削減に取り組む。

③ 流動比率は、類似団体平均値を大きく上回り、④ 企業債残高対事業規模比率は、一般会計からの繰入金で償還額全額を賄っているため0%である。

2. 老朽化の状況について

観音寺市にある3つの処理区のうち最も古いものは、平成5年度に事業を開始している。
① 有形固定資産減価償却率が類似団体平均値を大きく下回っているが、これは令和2年度に公営企業会計へ移行してからの減価償却累計額を基に算出しているためであり、今後の上昇が見込まれる。

耐用年数を超えた管渠がなく、更新実績もないため② 管渠老朽化率と③ 管渠改善率はともに0%である。

今年度の修繕費のような費用の増加は経営に大きな影響を及ぼすため、引き続き計画的な維持管理に努める。

全体総括

経費回収率が低く、一般会計からの繰入金に依存した経営状況が続いており、改善のために維持管理費削減に継続して取り組む。
安定したサービス提供の実現のため、人口減少や施設の老朽化、物価上昇等の現状を踏まえた経営戦略（令和6年度末改定予定）に基づき、改修や施設規模の適正化のみならず、施設の統廃合を含めた抜本的な改革を検討する。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。